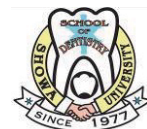




発行責任者: 歯学部長 宮崎 隆, 編集責任者: 広報委員長 中村 雅典  
〒142-8555 東京都品川区旗の台1-5-8 TEL: 03-3784-8000  
ホームページ: <http://www.showa-u.ac.jp>



### 専門医制度改革と歯科医療への展望

歯学部長 宮崎 隆

生命科学の進歩や医療に対する社会ニーズの多様化に対応して、本学ではいち早く教育改革に取り組んできましたが、医療人育成に関する我が国の政策も過去15年間に大きく変化してきました。平成13年に医学教育および歯学教育モデルコアカリキュラムが文部科学省から公表され、その後も改訂が行われています。平成17年には社団法人医療系大学間共用試験実施評価機構が設立され、共用試験が正式実施されました。



平成16年からは新医師臨床研修制度(2年以上の必修化)が導入され、少し遅れて平成18年には歯科医師臨床研修制度(1年以上)が導入されました。本学部においても、研修医の受け入れのために、4年生まで旗の台校舎で教育するカリキュラムへの変更と歯科病院の診療科再編が行われました。

その後医科では、医師の地域偏在や専門医へのキャリアパスの問題等が指摘され、平成21年には研修医制度の見直しが行われました。医学界ではこれまで各学会が独自に専門医を認定していましたが、平成14年から一定の外形基準を有する学会が認定する専門医の広告が可能になったため、学会専門医制度の乱立と質の低下への懸念が生じ、患者にとって必ずしも受診の指標になっていないことが指摘されるようになりました。そこで、厚労省主導で専門医の在り方に関する検討会が発足し、平成26年に日本専門医機構が設立され、一気に新しい専門医制度が開始することとなりました。大きな枠組みとして基本領域とサブスペシャルティの二段階制になり、専門医の認定は各学会ではなく、第三者機関で行われます。さらに、総合診療専門医が設けられました。具体的なタイムスケジュールがすでに提示され、平成28年度に2年間の初期研修を終了した研修医が、平成29年から「専攻医」として各専門医のプログラムに応じて4-5年の後期研修を行ったのち、初めての専門医が認定されます。

本学においても、各診療科で研修プログラムの策定が急いで進められており、また、学校法人として「専攻医」の処遇が検討されています。

これは研修の必修化に続く、医療行政の大改革であり、歯科医療への波及も検討しなくてはなりません。平成27年1月に厚労省に「歯科医師の資質向上に関する検討会」が設置され、その中で歯科医師の需給問題、女性歯科医師とともに歯科医療の専門性が議論されています。おそらく具体的な提案まではまとまらなると考えられますが、今後現状の学会認定の専門医制度の見直しや、医科の総合診療医に相当する総合歯科診療専門医の必要性が検討されると考えられます。これらの議論は本歯科病院の院内標榜や本学部の教育にも影響するので、それぞれの立場から関心を持ってほしいと思います。

私が理事長を務める日本歯学系学会協議会では、前山根理事長時代に、歯科における専門医制検討のシンポジウムを継続して開催し、第三者評価組織等の提案を行ってきました。日本歯科医学会が新たな法人格の日本歯科医学会連合を設立することが決まっており、今後、オール歯科の立場で専門医制の議論が進むことを期待しています。本歯学部関係者は各方面で活躍していますので、歯科専門医療の発展に向けて宜しくお願い申し上げます。

### 選抜 I 期入試が実施されました

入学支援課 水庭 隆史

平成28年度歯学部選抜 I 期・センター I 期・編入学 II 期入試が1月28日(木)に、薬学部、保健医療学部と合同で、東京試験場五反田TOCビル以外にも、大阪試験場新大阪丸ビル別館・福岡試験場南近代ビルで実施されました。今年度の志願者数は、選抜 I 期524名、センター I 期214名、編入学 II 期1名、と多くの人が受験しました。当日は目立った混乱もなく、無事に入試は終了し、2月1日(月)に選抜 I 期、2月4日(木)にセンター I 期の合格者を発表いたしました。多くの優秀な学生の入学と今後の歯学部の更なる発展が期待されます。ご協力いただきました教職員の皆さまに心からお礼を申し上げます。



## 文科省 IT 連携 第2回公開シンポジウムを開催しました

歯学教育推進室 片岡 竜太

「超高齢社会で活躍できる歯科医師の養成」のプロジェクトに岩手医科大学と北海道医療大学と関連する9歯科医師会と一緒に取り組み4年が経過しました。その成果を公開するために、第2回公開シンポジウムを平成28年1月23日(土)に岩手県歯科医師会館8020プラザで開催しました。3連携大学と連携校以外の大学、歯科医師会などから100名以上の参加があり昭和大学からは8名が参加しました。

岩手医科大学理事長・学長の小川彰先生と岩手県歯科医師会会長の佐藤保先生のご挨拶の後、文部科学省高等教育局大学振興課の猪俣志野様に「本取組に期待するもの」として、1)ステークホルダーとの連携を継続的かつ実質的なものにし、2)補助期間終了後の継続を見据えて取組を強化し、3)積極的な情報発言をして欲しいという挨拶文をいただきました。次に日本訪問歯科協会理事長の守口憲三先生に「訪問歯科の過去、現在、未来」というタイトルでご講演をいただきました。守口先生は35年前から患者中心の治療の一環として、訪問歯科診療を始め、通院できない高齢者や障がい者こそ診療や口腔ケアが必要という考えから、16年前に日本訪問歯科協会を設立されました。かかりつけ医やケアマネージャーとの連携や必要な用語、文書など具体的なポイントをわかりやすく話していただきました。超高齢社会で活躍する歯科医師になるために、学生が具体的に何を学ぶべきか考える際に大変参考になる内容でした。

本事業は3、4年生でIT教材を活用して「基礎知識の修得」「コミュニケーション・臨床推論能力の修得」を行い、5年生で、学んだ知識をしっかり臨床に活用するために、ポートフォリオを用いて振り返りを行っています。シンポジウムでは、城茂治教授(岩手医科大学)が司会を務め、片岡竜太教授(昭和大学)による本事業の全体像の紹介に続いて、1.「学生の立場」で小泉浩二君(岩手医科大学5年生)が初年次からの学外実習での経験とIT教材を活用した学習がどのように実習に役立ったかを話してくれました。IT教育への希望として紙媒体も併用する事、実習現場のビデオを活用する事など参考になる意見を提案してくれました。2.「教員の立場」で越野寿教授(北海道医療大学)は大学教員としてのステークホルダーとの連携、ワーキンググループの中での他大学教員、歯科



医師会との協働と教材作成、高齢者に関する歯学部教育に関連して、本プロジェクトが良い機会を与えてくれ、ITを活用した授業が5年生の地域連携歯科医療実習の準備として役立ったというお話をいただきました。3.「歯科医師会の立場」で佐々木勝忠先生(奥州市国保衣川歯科診療所所長)は岩手医大5年生の地域医療体験実習の受け入れ施設として受け入れた学生に対する指導内容を紹介いただきました。学生の感想文から学生にとって充実した実習であったことが窺われましたが、受け入れ施設間で指導内容を統一すべきであり、受け入れ施設指導者に対して研修をすべきであるというご提案をいただきました。総合ディスカッションでは生涯学習ができる人材育成、歯科医師会の指導の下で実施される地域医療実習について活発なディスカッションがなされました。東京大学の太西弘高先生には外部評価者として、ITを活用した教育は妥当な方向に進んでいるが、今後、事業終了後の持続発展可能性、特に高齢者の問題解決を指向した教育という側面での一段の発展が期待されるというコメントをいただきました。

シンポジウムの後は岩手医科大学の三浦廣行学部長をはじめ岩手医科大学、北海道医療大学の教職員の方々と本取組の発展を祈りつつ懇親会が開かれました。岩手医大の本事業責任者としてご尽力いただいた城茂治教授が3月末で退職されるため、3大学有志から花束と記念品を贈呈しました。最後になりましたが、忙しい時期にも関わらず参加していただいた各大学ならびに歯科医師会の先生方、会場を提供していただいた岩手県歯科医師会、運営にご尽力いただいた岩手医科大学の教員および事務関係者、協力IT企業に心から御礼申し上げます。

## 歯科医師国家試験が実施されました

口腔リハビリテーション医学部門 高橋 浩二

平成28年1月30日(土)、31日(日)に第109回歯科医師国家試験が実施されました。試験会場は大正大学で本学のほか、関東と信州の全ての歯科大学から多くの受験生が集まりました。本学受験生の応援には1日目は宮崎学部長、美島教育委員長はじめチューター担当の教授陣が駆けつけ、教え子たちに檄を飛ばしました。2日目は若手OBが集まり、後輩たちを勇気づけていました。2日間とも冬の寒さは厳しかったものの幸いにして降雨、降雪などはなく、交通機関の遅れなどもなく、本学受験生は全員が無事試験に臨むことができました。ご存知のように歯科医師国家試験の合格者数は減少傾向にあり、全ての受験生にとって年々狭き門となっています。とくに今年は本学を除く全ての私立歯科大学が自校の受験者を厳しく制限している中、本学はチーム医療教育やiOSCAなど先進的な教育を行いながら97%の学生を国家試験に臨ませることができました。吉報が待たれます。



### 3大学学生交流で Skype 討論を行いました

歯学部5年

谷口咲香, 林千陽, HAN JAMES HYUNWOO

それぞれの地域性や特色がある北海道医療大学と岩手医科大学の5年生と、「高齢者に関わる施設実習や地域医療についての実習」に関して、実習中の写真や実習にかかわる資料を事前にサーバーに公開し、ネット上での質疑応答を行い、2月10日の17:30からプレゼンを行い、意見交換をしました。これは、文部科学省 大学間連携共同教育推進事業「IT を活用した超高齢社会の到来に対応できる歯科医師の養成」による三大学交流の一環です。

他大学の歯学部生と1~4年までの基礎実習の内容に加え、5年生での高齢者歯科外来、施設実習、さらに外部病院やPBL実習の内容や感想を発表しました。4年生までの実習の意義や目的を再確認すると同時に実際に患者さんと接することで、それぞれが思い描く歯科医師像を明確にし、伝えることができました。また、資料の作成や発表の準備を通じてポリクリについても一度考えさせられました。



さらに他大学の超高齢社会に対する取り組みについての素晴らしい発表を聞き、それぞれの大学の歯学部生が持つ考え方や高齢者歯科を含めた臨床実習全般について視野が広がりよい刺激になりました。

また昭和大学の代表として発表するという貴重な経験をさせていただき、自身の成長に繋がったと同時に大きな自信となりました。最後になりましたが、佐藤教授、片岡教授をはじめ、ご指導していただいた先生方に厚く御礼申し上げます。

### 3連携大学地域医療実習の学生発表会を行いました

歯学教育推進室 片岡 竜太

文科省IT連携事業において3連携大学の教員同士は連携しているが、学生間の交流がないことを外部評価委員や学生から指摘を受けました。北海道医療大学、岩手医科大学と本学は地理的には離れていますが、毎月定例で開催される「ITを活用した教育センター会議」はスカイプを活用して、すでに36回開催しています。

3連携大学の3、4年生は同じIT教材を用いて学んでいます。5年生は各大学で地域性や特色の異なる臨床実習・地域医療実習を行っています。

北海道医療大学咬合再建補綴学の越野寿教授にプロジェクトリーダーを務めていただき、2月10日(水)に歯科病院2号館Aゼミでスカイプを用いて、高齢者に関わる施設実習や地域医療について学生発表会を行いました。

11月のスカイプを用いた説明会で越野先生から3連携大学の学生に、発表会の目的と具体的な説明がありました。その後学生達はパワーポイントを準備し、web掲示板に掲載し、感想や質問をweb上で交換しました。この間高齢者歯科佐藤裕二教授に本学学生の指導をしていただきました。

1年生からの学びを振り返った本学学生の発表は分かりやすく、他大学の学生も昭和大学の教育に興味を持ってくれたと思います。初対面でネット上とは思えない、30分間の本音が入った熱いディスカッションが行われました。学生だけでなく教員も良い刺激を受け、連携するメリットを改めて感じる良い機会になりました。



### 昭和大学スポーツ運動科学研究所 第1回学術研究発表会が開催されました

顎関節症治療学 船登 雅彦

平成27年度昭和大学スポーツ運動科学研究所第1回学術研究発表会が12月26日に昭和大学病院入院棟臨床講堂で開催されました。歯科病院、藤が丘リハビリテーション病院、日本体育大学等の関係者130人が参加されました。スポーツ運動科学研究所は4月に設置され、スポーツ健康科学分野における学術ならびに教育の発展に寄与すべく、「医系総合大学」の特徴を生かした学術連携による教育・研究・臨床を行うことを目的としております。当日は8題の学術研究発表と日本体育大学船渡和男教授による特別講演が行われました。研究発表の内容はスポーツに関連した日本体育大学との連携やチーム大東建託(株)プロジェクトの提携等が主で、歯学部からは船登が「プロ野球選手(ロッテ)のデンタルチェックの経験と今後のスポーツ歯科活動」と題して発表を行いました。プロ野球選手のう蝕罹患傾向、智歯(親知らず)と顎骨骨折との関係、および今後の研究テーマの提示をさせていただき、活発なディスカッションをすることができました。スポーツ歯科としては医科と連携した他に類を見ない共同研究を行っている所存です。興味のある方は是非ご連絡ください。



## CBT が実施されました

CBT 副実施責任者 荒木 和之

1月26日(火曜日)に、平成27年度共用試験CBTが実施されました。インフルエンザの流行がみられている時期であり心配していましたが、受験を希望していた4年生91名は欠席もなく全員無事受験しました。当日は旗の台校舎4号館600号教室を試験会場とし、学生は午前8時40分に集合し、全320問の問題に取り組みました。試験は6ブロックに分かれており、各ブロック60分で解答をおこない、最後にアンケートをして解散となりました。学生は終始緊張の面持ちで試験に臨んでいましたが、CBT事前説明会やCBT体験テストの経験もあって、大きな混乱もなく無事試験を終了することが出来ました。運営は、北川先生(実施責任者)、中村先生(副実施責任者)、坂井先生(サイトマネージャー)、学務の係員と私が担当しました。試験監督は午前・午後各3名のべ6名の体制でおこない、基礎系の先生方をお願い致しました。

当日は共用試験実施評価機構から岩手医科大学の近藤教授、日本大学松戸歯学部の清水教授がモニター委員として派遣され、実施状況を監視されました。試験終了後の反省会では、受験態度や実施状況など、全体的に良好でしたとのコメントをいただきました。CBT実施にあたりご協力いただいた先生方・事務方の皆様には、この場を借りて御礼申し上げます。



## OSCEが実施されました

OSCE委員会 委員長 菅沼 岳史

平成28年度共用試験OSCEが2月14日(日)に歯科病院において実施されました。評価、運営に関わったスタッフは、教職員146名、SP27名、機構モニター2名、外部評価者6名の合計181名で、91名の学生が受験しました。前日には春一番が吹き、当日午前中に強い雨も降りましたが、受験生の遅刻や大きなトラブルもなく無事に終了することができました。今回はスタッフが不足したため、急遽基礎系講座に1名ずつ追加をお願いし、テストランの受験生役を一部の評価者の先生方をお願いするなどこれまでにない体制となりご迷惑をおかけしました。終了後の反省会において、評価者間やSPとのすり合わせに関する問題や補助者、誘導、回収、集計の役割の専任化などの問題点が指摘されました。解決の難しい問題もありますが、スタッフの負担を軽減し、歯科病院という限られた環境の中で公平かつ効率よく実施できるように、今後の委員会でこれらの問題点を検討したいと思います。なお、各課題で合格点に達していない学生に

は補講を行い、総合計の不合格者には再試験を行う予定です。週末の貴重な時間を多くの教職員の方々にご協力を頂きありがとうございました。

## 台北医科大学との学生交流プログラムを行いました 口腔微生物学 桑田 啓貴

1月18日から27日まで2週間、国際交流協定締結校の台北医科大学歯学部より、張瑾涵(チャン チーハン)さん、魏慈逸(ウェイ ツーイ)さん、黃瑀真(ファン ユーチェン)さんを昭和大学にお迎えしました。内容は、各講座の先生方に解説を頂きながら、国際交流センター、地域連携歯科、D3基本診療実習(麻酔講習、脈拍測定実習を含む)、スペシャルニーズでの障がい児診療、補綴科、デジタルラボ、摂食嚥下指導の見学、歯科理工学研究体験、生化学研究入門(2日間)、放射線科、矯正科などを順に巡っていただきました。加えて彼女たちは日本文化への関心も高く、国際交流センターのご助力を得て、茶道教室も行っていただきました。最終日には、臨床講堂において「D5歯科臨床と口腔科学」の講義(矯正学)を昭和大学の学生と一緒に受講していただき、締めくくりとして修了証を渡すことが出来ました。他にも、ドイツ留学生や医歯薬の学部学生を交えたチャットクラブもあり、盛りだくさんな2週間であったことは間違いありません。



## 認定医・専門医取得

広報委員長 中村 雅典

渡邊友希:日本口腔顔面痛学会認定医取得

## 行事予定

広報委員長 中村 雅典

3月 1日(火):D2オリエンテーション  
3月 3日(木):D4 OSCE 追再試験  
3月10日(木):D5 iOSCA  
3月11日(金):卒業式・学位記伝達式  
3月18日(金):109回歯科医師国家試験合格発表  
3月18日(金):大学院歯学研究科修了式  
3月17日(木):D5 iOSCA 追再試験  
3月22日(火):D5オリエンテーション・予備実習  
3月25日(金):D5白衣授与式

## 編集後記 口腔病理学部門 田中 準一

2月は入試・進級試験などが重なり忙しい時期となりましたが、くれぐれも体調管理にはお気を付けください。末筆ながら、ご寄稿いただいた先生方には深く感謝申し上げます。